

米軍が筑波大に研究資金 04、05 年に計 960 万



米国防府の資料によると、筑波大の研究者は米空軍から、04 年 11 月に 1 件 2 万 5000 円、05 年 1 月に 3 万 9750 円と 4 月に 2 万 6250 円の 2 件の研究資金を受け取っていた。また研究成果の内容として、全てが「物理学、工学

筑波大学は 2004 年と 05 年の兩年、米軍から計約 8 万 2000 円（約 962 万円）の研究資金を受け取っていたことが米国防府（連邦調達庁）の公表資料でわかった。資料によると対象は「物理学、工学のほか生命科学分野」などとなっているが、筑波大は「文書の保管期限が切れており契約の有無が確認できない」としている。（田中開二教育学類 2 年、添島香苗 II 生物学類 3 年）

物理学・工学などに

合研究所、物質・材料研究機構など 12 の大学・研究機関が資金の受け入れを認めている。

透明性の確保を

記者の目

このような中、大学に何よりも問われるのは「透明性」だ。大学の軍事研究については新潟大学のように「軍事への寄与目的の研究を行わない」との「行動指針」を定めた大学もある。また共同通信によると、象徴的だったのが、昨年 7～8 月、日本の防衛省が国の防衛などに応用可能な研究テーマを設定し、大学や民間企業などから研究者を募集したことだ。優れたものに最大で年 3000 万円の研究資金を出すとしたが、109 件あった応募のうち 58 件が大学だった。

トヨタと共同研究

公共交通システムを研究

障害者や外国人を含め誰もが生活しやすい社会の実現を目指し、筑波大学システム情報系、人間系、芸術系は、トヨタ自動車（愛知県豊田市）との共同研究を昨年 11 月に開始した。公共交通システムや都市デザインなどの研究・開発を行う。

科学技術政策を考える



特別講演を行う森本さん（昨年 12 月 12 日、総合研究棟 A で）

大学院共通科目の一つである「科学技術・学術政策」の講義の「環」として、昨年 12 月 12 日、大学の学術

た。加藤教授は、キャンパスと呼ばれる小型車両を複数つなげて移動する新たな交通体系の管理システムを紹介。「トヨタとの共同研究で、万全のセキュリティ対策を施した安全なシステムを開発したい」と話した。また、筑波大教授で国際

産学連携本部審議役の内田史彦氏が講演。「共同研究には、工学的な技術だけでなく社会学や経済学などさまざまな分野の知識が必要。幅広く学際的な研究ができる筑波大学だからこそ可能だ」と語った。（小宮山瑛生 II 社会学類 1 年）

本紙が学長を表敬訪問

朝日新聞社賞など受け



永田学長（右）と話す本紙記者（1 月 20 日、本部棟 4 階の学長応接室で）＝広報室提供

本紙記者は 1 月 20 日、「第 5 回大学新聞コンテスト」の一般新聞部門での最優秀賞の受賞とつくば中央署からの感謝状の贈呈を受け、筑波大学の永田恭介学長を表敬訪問した。

同紙は筑波大周辺で犯罪や交通違反が多発している点に着目。コンテストでは、本紙が筑波大周辺の街灯設置を目指し、2013 年から続けているキャンペーン「つくばに街灯を」などが評価された。また、つくば中央署からは昨年 11 月

常陽新聞に本紙記事 2 月から隔週で



1 月 21 日付の常陽新聞。筑波大学附属図書館の公式キャラクターなどについて取り上げている

もろつて狙いだ。

常陽新聞は、2014 年 2 月 1 日に創刊された日刊紙。日曜休刊で、発行部数は約 4000 部。主に 30 代

50 代の子育て世代を中心に読まれている。同紙は電子版に力を入れており、購読者は無料で電子版を利用できるほか、電子版のみの

本紙記者が 特約記者に

今年から本紙の新田萌夏（社会学類 3 年）と添島香苗（生物学類 3 年）の両記者が常陽新聞の特約記者として活動することが決まった。

常陽新聞編集制作局デスク統括の松本裕樹さんは「筑波大学新聞は今まで独自の調査を行い報道してきた。その経験を生かしてつくば市に根ざした記事や調査報道などを積極的に行ってほしい」と話している。（大西美雨）

催事

キャリアインタビュー 2015

1 月 30 日（土）に 1H101、第一エリア食堂で開催。午後 0 時から 1H101 で受付開始、午後 1 時から開会。

筑波大学就職課が主催し、筑波大 O.B・O.G が就職活動での質問に応じたり、情報提供を行う。メインイベントの O.B・O.G との交流会のほか、「広い視野を持った職業の選択」をテーマにしたパネルディスカッションを開催。



定員は先着 120 名。事前の参加登録が必要だが、定員に満たない場合は当日参加も可能。

問い合わせ II syushokuk a@un.tsukuba.ac.jp

参加登録用ウェブページ QR コード（筑波大学就職課）

アカペラコンサート 2016

2 月 21 日（日）につくばカピオホール（つくば市竹園）で開催される。午後 5 時 40 分開場、午後 6 時開演、午後 8 時 30 分終演。

筑波大学アカペラサークル Duo-o-Wop の公演。今年のテーマは、季節の移り変わりという意味の「passage」。春と冬それぞれの季節の雰囲気やその移ろいを、アカペラを通して演出する。

チケットは前売の券が 500 円、当日券が 600 円。チケット予約 II http://goo.gl/forms/AuU7puqf

問い合わせ II http://doowop.web.fc2.com/w/top.html（筑波大学アカペラサークル Duo-o-Wop）

能・狂言研究会特別公演

3 月 5 日（土）につくばカピオホールで開催される。今年のテーマは「梅枝」。登場人物の明石の姫君が装束（成人式）を迎える源氏物語の第 32 帖「梅枝」と 3 月の季節感を重ね合わせ、若々しい公演にしたいとの思いで名付けた。「胡蝶」、「東北」などの梅を題材にした春らしい演目を仕舞形式で多く上演する。また、狂言「鐘の音」を上演する。午後 2 時開場、午後 4 時頃に終演の予定。入場無料。

問い合わせ II s1410443@un.tsukuba.ac.jp（筑波能・狂言研究会、副会長・田中開二）

ツイッター II https://twitter.com/tkb_nokyo

地道な取材に評価

デザイン＝姉崎信(心理学類3年)



街灯設置前の春日4丁目(左)(2013年10月撮影)と街灯設置後(右)(昨年3月撮影)。標識手前にも街灯が付き、格段に明るくなった。

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

宿舎を問う

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

続く各種キャンペーン

群代表者会議(全代会)への取材……。その結果、宿舎を取り巻く様々な問題点が浮き彫りにされた。

また驚かされたのは、老朽化や部屋の狭さを理由に宿舎に2年以上の入居を希望する学生が近年減少していることだった。全代会が行ったアンケートの結果だったが、実際、宿舎を訪れると古い調理室の床が想像以上に汚れていた。また記者たちは宿舎の部屋の壁内面積をメジャーで測定もした。その結果わかったのは、いずれの部屋も7〜8平方メートル程度で、大学の公式パンフレット

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

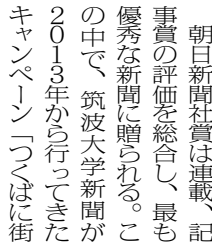
交通違反者を計測

本紙が同コンテストで記事第2位になり、つくば中央署からも感謝状を授与された記事は、昨年11月の1面に掲載した「本紙計測5人に1人が交通違反だ。これは自転車車の交通違反がどの程度いるのかを、筑波大生が多く通る2箇所

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学



つくばに街灯を

灯を「同コンテスト一般新聞部門の連載賞に決まった。わいせつ事件の被害者や警察、市役所など各所に取材したこと、一連の報道を受け、つくば市が春日4丁目に街灯を設置したことが評価された。

そして本紙の報道を受け、14年1月、市原健一、つくば市長が本紙の質問状に対し、問題解決のために「明のいま」づくり協議会を設置し、議論を進める考えを表明した。

本紙が同コンテストで記事第2位になり、つくば中央署からも感謝状を授与された記事は、昨年11月の1面に掲載した「本紙計測5人に1人が交通違反だ。これは自転車車の交通違反がどの程度いるのかを、筑波大生が多く通る2箇所

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

事件多発を機に掲載開始 つくば市が街灯13基設置

道に段差が見えない。(事件だけでなく事故を起こさないか不安だ)「できれば街灯がほしい」。これらを機に、同年12月からキャンペーン「つくばに街灯を」を開始。筑波大やつくば市、地元自治会、関係団体などを取材し、▽春日4丁目の自治会がつくば市に対し、街灯設置を過去に要望していたこと▽不審者が現れたことを機に、研究機関が独自に街灯を設置したこと……などを報じてきた。

本紙が同コンテストで記事第2位になり、つくば中央署からも感謝状を授与された記事は、昨年11月の1面に掲載した「本紙計測5人に1人が交通違反だ。これは自転車車の交通違反がどの程度いるのかを、筑波大生が多く通る2箇所

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

「一面参照」筑波大学新聞は昨年12月、「第5回大学新聞コンテスト」の一般新聞部門で、最優秀賞(朝日新聞社賞)を受賞した。2013年から続く「一連のキャンペーン記事」「つくばに街灯を」などが評価された結果だった。また1月には、筑波大学の自転車マナーに関する記事(324号、昨年11月)が評価され、つくば中央署から感謝状が授与された。授与されるに至った本紙の紙面展開や、現在続くさまざまなキャンペーンなどについて紹介する。(鈴木拓也、油布知夏、人文学類、井口彩、新田萌夏、林健太郎、森脇慎二社会学類、添島香苗生物学類、姉崎信心理学類)

本紙が同コンテストで記事第2位になり、つくば中央署からも感謝状を授与された記事は、昨年11月の1面に掲載した「本紙計測5人に1人が交通違反だ。これは自転車車の交通違反がどの程度いるのかを、筑波大生が多く通る2箇所

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学

本紙は昨年以降「宿舎を問う」のキャンペーンを続けている。きっかけは宿舎に住んだことのある記者の「部屋が狭く、建物が老朽化している」という経験だった。「とりあえず事実を集めよう」とを合言葉に、記者たちは取材活動を開始した。宿舎に住む学生へのインタビュー。大学や不動産業者、全学学類・専門学



赤塚署長(左)から感謝状を受け取る新田記者(中央)と油布記者(右)(1月18日、つくば中央署で)＝同署提供

感謝状を授与

つくば中央署から18日、赤塚健一つくば中央署長は「(記事で)自転車の交通違反の実態に触れたこと、交通安全活動に協力し、貢献した」と説明。記事執筆した油布知夏記者(人文学類3年)、新田萌夏記者(社会学類3年)が赤塚署長から賞状を受け取った。

つくば中央署からの感謝状は、筑波大学の防犯意識向上などを求めるキャンペーンを展開した2014年1月に続き2度目。

虚心坦懐に事実を追及



本紙編集代表 福原直樹

受賞にあたって

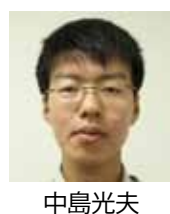
最近、旧知の全国紙幹部から電話を貰いました。若い記者時代からお互い特ダネ(スクープ)を求め、切磋琢磨してきた間柄でしたが、開口一番、彼はこう言いました。

「筑波大学はいい大学です。ここ数年、本紙を読み続けてきたが、虚心坦懐に事実を追及し、時には大学の在り方を大胆に狙上っている。こんな新聞を発行する大学は組織に透明性があり、いい大学だ……」

彼が言うのです。1974年10月。本紙は創刊号を出し、長い道のりを歩き始めました。その創刊号で、初代発行者、鈴木博雄氏(現名誉教授)は概略、次のように書きます。「学問研究は厳しい批判的精神に担われているが、大学新聞も旺盛な批判的精神に貫かれたものでなければならぬ……新聞の自由は批判の自由である」

それから40年以上。学生記者の手による新聞は、この精神を脈々と受け継いできました。そして今では、学内はもとより、大学行政に密着した周辺の市役所や警察の動きにも目を配った記事発信しており、「地域紙としての役割も果たしている」(全国紙幹部)と

記者の声



中島光夫

などの学生支援の改革を視野に入れてほしい。

25年度の国立大学法人の収入では、税金で賄われる交付金が34%で最も

教育機会の平等を守れ 学生支援制度の改革を

多いが、学費(検定料を含む)も11・6%と3番目に大きな収入源だ。筑波大学の場合もほぼ同様で、最新の決算では、収入(1063億円)のうち交付金が41%、寄付金や産学連携による収入が10%、学費が9%だ。厳しい財政の中、学費は貴重な財源だ。外部資

「世界で最も高額」だ。また、日本の進学率は高いとは言えず、短大・大学進学への進学率はOECD平均の62%を11ポイント下回る51%にとどまる。高い学費が低い進学率の背景にあるのは間違いない。

そもそも交付金を減額すれば、国立大学は、学

費の値上げ以外にも無理な改革を迫られるのではなか。産学連携による外部資金の獲得への圧力が強まるだろうし、その場合理系が重視され文系が軽視されないとも限らない。文系学部を廃止したり、教育内容が産業界の要請にならぬものに偏

からだ。

例えば米国では、政府が最大規模の奨学金を運営し、月約3万円のそれは無償だった。一方、日本の主要な公的奨学金である日本学生支援機構(文科省所管)の平均支給額はほぼ同額だが、ほとんどに返済義務がある。日本のこのような状況は先進国の中でも「異例」(大手紙)という。大学の授業料免除制度も問題があった。大手紙によると筑波大の場合、25年度には学費全額免除の適格者が1800人いたのに対し、予算不足から実際は全額免除が1000人に抑えられた。他大学でも同じようなことがあった。

その後、この状況は筑波大では格段に改善されたが、このような前例は不安材料だ。

筑波時評

再婚禁止期間 立法府の怠慢を訴えた 子どもの利益最優先に



本澤 巳代子 教授 (民法法)

女性だけに6カ月の再婚禁止期間を課す民法733条1項の規定は、憲法14条1項及び24条2項に違反するとの主張に対し、最高裁大法廷は2015年12月16日、100日を超えて再

判断を示した。特に再婚禁止期間とされる6カ月について科学的根拠はなく、「女が離別・死別し、すぐに他の男と婚姻するなどとてもない」といった古い考えに基づいたものだと言われている。

また、この100日間は再婚禁止期間100日を設定すべきだとは必ずしも言えない可能性もある。となると、再婚禁止期間の規定に違反して再婚をした女性が出産した場合、父を定めるための規定(民法773条)が用意されているから、再婚を希望する女性が妊娠している場合、その子は再婚相手の子ともである可能性が高い。この場合、むしろ

反射鏡

夫婦別姓どう思う？

昨年12月、最高裁は夫婦別姓を認めない民法規定を合憲だと判断した。筑波大学生は夫婦別姓についてどのように考えているか、中央図書館前で聞いた。(加藤菜理Ⅱ人文学類1年、徳永真Ⅱ日本語・日本文学類1年)

【人文1年・女性】 賛成。男女格差是正の運動などが行われている現代で、夫婦同姓という古い考え方に固執しすぎるのは良くないと思う。結婚したら、相手と話し合って姓名を決めたい。

【日理1年・男性】 反対。別姓が必要なのは日常生活で名乗って良いと、夫婦同姓という古い考え方に固執しすぎるのは良くないと思う。結婚したら、相手と話し合って姓名を決めたい。

【人文1年・女性】 賛成。結婚は当然の合意のもと行われるべきだし、結婚した人が姓を同じにするか別にするかをわざわざ憲法で決めてほしくない。国民の選択の幅が広がると思っている。

【日理1年・女性】 賛成。結婚は当然の合意のもと行われるべきだし、結婚した人が姓を同じにするか別にするかをわざわざ憲法で決めてほしくない。国民の選択の幅が広がると思っている。

【日理1年・男性】 賛成。結婚は当然の合意のもと行われるべきだし、結婚した人が姓を同じにするか別にするかをわざわざ憲法で決めてほしくない。国民の選択の幅が広がると思っている。

あなたの今年の抱負

年が明け2016年を迎えた。「新年の計は元日にあり」というが、筑波大学生はどのような新年の目標を立てたのか。2016年の筑波大生の目標を、中央図書館前や第三エリア食堂で聞いた。(橋野朝奈Ⅱ日本語・日本文学類1年、前名裕一Ⅱ社会学類1年)

【社会学3年・女性】 今年就職活動や卒業論文の執筆があり、大学生活の集大成の年。「諦めない」「民法の一部を改正する法律案要綱」において示されていたものだ。それにもかかわらず、国会が正当な理由もなく長期にわたって立法措置を怠ってきたとして国家賠償が請求されたこと、これを支持する少数意見があったことにも注目してほしい。立法府の怠慢を、司法の場へ叱責した国民の新たな試みだからだ。

【社会学3年・女性】 今年就職活動や卒業論文の執筆があり、大学生活の集大成の年。「諦めない」「民法の一部を改正する法律案要綱」において示されていたものだ。それにもかかわらず、国会が正当な理由もなく長期にわたって立法措置を怠ってきたとして国家賠償が請求されたこと、これを支持する少数意見があったことにも注目してほしい。立法府の怠慢を、司法の場へ叱責した国民の新たな試みだからだ。

【社会学3年・女性】 今年就職活動や卒業論文の執筆があり、大学生活の集大成の年。「諦めない」「民法の一部を改正する法律案要綱」において示されていたものだ。それにもかかわらず、国会が正当な理由もなく長期にわたって立法措置を怠ってきたとして国家賠償が請求されたこと、これを支持する少数意見があったことにも注目してほしい。立法府の怠慢を、司法の場へ叱責した国民の新たな試みだからだ。



イラスト 姉崎信 (心理学類3年)

【医学2年・女性】 ゴルフ部に入っており、大会に向けて体力をつけた。朝にランニングをする習慣をつけようと思う。

【日理1年・女性】 韓国へ1年間留学に行くので、現地の人と交流して成長の糧にしたい。

【人文2年・男性】 友人とまめに連絡を取るなどして、人との関係を大切にしたい。

【修教2年・女性】 物事を前向きに捉え、また自分に厳しくすることで自分を成長させたい。

【社会学1年・男性】 今年の参院選で初めて選挙権を得るので、社会情勢に高い関心を持ち、社会の一員として責任ある行動を取りたい。

退職教員インタビュー

今年もお世話になった教員が定年退職を迎える。彼らは研究はもちろん、教育、社会貢献など多方面で活躍された。教員としての長い道のりを一体どのように感じながら歩んでいったのか。退職の日を前に、教員生活での印象深かったエピソードや学問の道へと進むことになったきっかけ、今後の展望などを聞いた。（佐々木悠里Ⅱ人文学類、橋野朝奈Ⅱ日本語・日本文化学類、石川泰行、岡田優太Ⅱ社会学類、深作歩美Ⅱ生物資源学類）

公民館の役割探る

日本の農業の後継者不足 育成には若者の意識を養え 文にまとめた。

問題、公民館の国際比較、震災復興における社会教育 などさまざまな研究に取り組んできた。

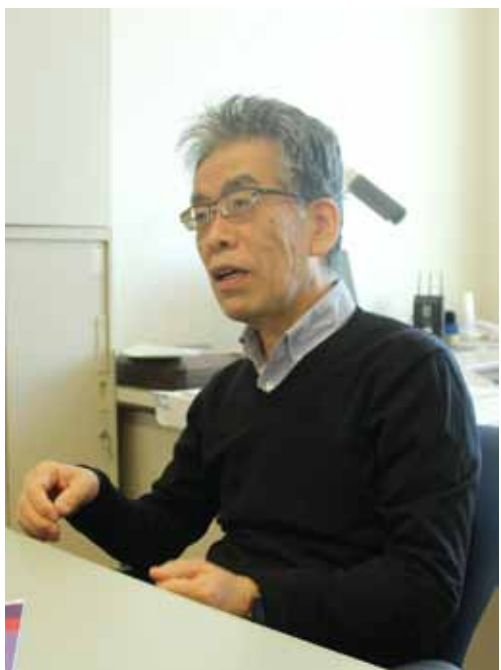
学部時代は農学部農村経済学科に在籍。農業体験に参加した際、農家から後継者不足の現状を聞いた。

当時、後継者問題は農家の平均収入の低さにあると考えられていた。しかし、教授は、後継者不足の原因は若者が農業の役割の重要性を理解していないことにあると分析。「後継者の育成には若者の意識を養えることが必要だと考えた。これがきっかけとなり、社会教育の観点から物事を捉える面白さに気付く、大学院では社会教育学を専攻した。

研究者となつてからは約 30 年間、近代の日本の農村を研究。明治時代以降に日本のは、当時の地主が稲作技術を習得し実践する一方で、地域の指導者として習得した技術を農民に伝えたという事実があることなどを論

その後、大学院時代の研究室の先輩に誘われ、公民館を専門的に多方面から研究する公民館学会の創設メンバーの一員となる。公民館に向かうようになり、公民館職員専門性が明確になっていることに関心を抱いた。学会の理事に選ばれてからは全国の公民館の情報に接し、公民館に精通した。

また、アジアの青少年教育についての調査研究でフィリピンやタイを視察した



岡本 栄司 教授(シス情系)

企業研究員から教員に

今や多くの人が利用している。この研究を日本で先駆けて行った。

2008 年には情報の機密性の維持に有効な暗号方式であるペアリング暗号を性が高まるが、計算に時間がかかっていた。この欠点を計算方法の改良などで克服。それまでの計算を専門に行う部品が存在していなかった中で、世界初となるペアリングの演算を行うための部品である集積回路の開発をした。

大学院ではグラフの性質を分析するグラフ理論を研究。卒業後はそのまま大学に残り、教員の道を考えていたが、指導教官に言われた「就職して一度広い社会に出るべきだ」との考えに共感。大手電機メーカーに就職し、研究員となった。研究所時代から暗号の研究に着手したが、当時は現在

暗号研究を先駆ける

がなかった。この欠点を計算方法の改良などで克服。それまでの計算を専門に行う部品が存在していなかった中で、世界初となるペアリングの演算を行うための部品である集積回路の開発をした。

その後、大学に自身の拠点を移してからはコンピュータセキュリティ分野の発展に注力。当時はまだ少なかった国内の研究に携わることができ、学会や国際会議の設立を行い、情報セキュリティ分野の国際誌「International Journal of Information Security」を創刊。編集長を務めた。現在、研究会のメンバーは設立当初と比較

現地との交流に腐心

東日本大震災が起った際、「何かしなくては」という気持ちにかられたという。そこで阪神・淡路大震災などの過去の被災地の復興に社会教育がどう関与したかを研究した上で、その研究を生かして被災地の地域生活の再建の支援をしようと考えた。

いくつも被災地を訪ねる中で、宮城県山元町にあった「お寺ボランティアセンター」に興味を持った。この施設は津波で流されたお寺を再建したものであり、そこでは地域住民が学習を重ねながら自分たちで地域復興のビジョンを作っていた。地域住民が地道な活動を続けている姿に心を動かされたという。

研究を行う上で大切にしていたのは、現地の人々との交流だ。「現地のことは



手打 明敏 教授(人間系)

退職後は、「公民館のあり姿を追求し、公民館の課題に関わっていきたい」と語る。教授の研究はこれからも続いていく。

昨年、手打教授の「生涯学習論」の授業を受けた学生の一人は、「手打教授は生涯学習の場としての公民館に注目し、授業では公民館に関連する法制度のほか、全国各地の公民館でのさまざまな独自の取り組みなどを学んだ。教授は各地の公民館を訪ねており、写真など豊富な資料を使っていた授業はとても意義深かった」と話している。

ラグビー

福岡堅樹(情科 4 年)



スタメン出場した。「持ち味のスピードは世界でも十分通用した」と振り返り、「(19 年の) 日本大会ではチームを引っ張る立場になりたい」と話していた。

今年 1 月 15 日には、リオデジャネイロ五輪に向けた

女子サッカー

猶本光(体専 4 年)



50 分 5 秒 8 の俊足で世界の舞台でも活躍する。ポジションは左ウイングで、筑波大では 1 年の時から試合に出場。2013 年の全国大学選手権で国立大初の準優勝に貢献した。

2 年春には日本代表に初招集。13 年 11 月のスコットランド戦では 2 トライを奪い注目を集めた。

昨年の第 8 回ワールドカップ(W杯) イングランド大会の日本代表にも選出され、スコットランド戦に

早いポジションと高い速さなどテクニックを武器に活躍する。筑波大入学生女子代表に初招集。同年 5 月のニュージーランド戦で代表デビューを果たした。

また同年、なでしこリーグのベストイレブンに初選出された。

今年も筑波大学からは、トップアスリートが羽ばたいていく。中でも特に輝く 4 人を紹介する。(鈴木拓也Ⅱ人文学類、井口彩、大西実雨、小宮山瑛生、新田萌夏Ⅱ社会学類、田中開Ⅱ教育学類)

柔道

永瀬貴規(体専 4 年)



今年も筑波大学からは、トップアスリートが羽ばたいていく。中でも特に輝く 4 人を紹介する。(鈴木拓也Ⅱ人文学類、井口彩、大西実雨、小宮山瑛生、新田萌夏Ⅱ社会学類、田中開Ⅱ教育学類)

剣道

竹ノ内佑也(体専 4 年)



2012 年に入学。男子 81kg 級で、同年全日本ジュニア柔道体重別選手権大会で優勝した。また翌年カザン(ロシア)で行われたユニバーシアードでも優勝。その名を世界に知らしめた。

入学直後の 2012 年 5 月、関東学生選手権でベスト 8 に入った。当時から鋭い面が得意で、この時も鋭い面で勝利した。

2 年に進級後、11 月に行われた全日本学生剣道優勝大会の決勝戦では勝敗が大

その後も、グランドスラム・東京 2013 では決勝で世界チャンピオンのビエトリ(フランス)を破り優勝した。

入学直後の 2012 年 5 月、関東学生選手権でベスト 8 に入った。当時から鋭い面が得意で、この時も鋭い面で勝利した。

2 年に進級後、11 月に行われた全日本学生剣道優勝大会の決勝戦では勝敗が大

今後も夢追う

藻類に魅せられて

水中に生息する藻類の研究の第一人者。2014 年、水中の放射性セシウムを吸収する藻類を発見した。東日本大震災の除染に貢献するために取り組んだ。

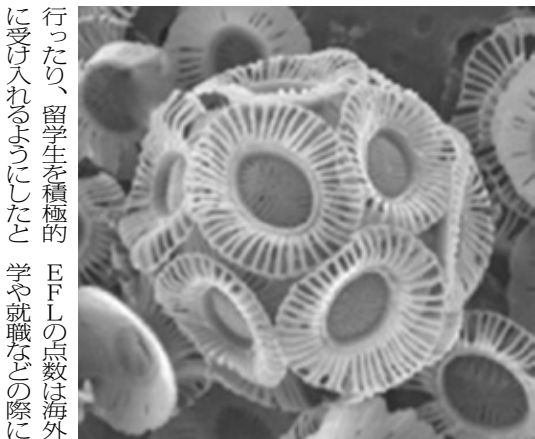
山形県の内陸部出身で、高校時代は生物部に所属。進学。学会発表などで他



白岩 善博 教授 (生環系)

海洋生物の現地調査をした時、生まれて初めて海に入り、そこで海藻など海の生物の美しさに感動し、興味を持った。「当時は自分が研究者になるとは思っていなかった」という。

大学では理学部生物学科に進学し、卒業後、大学院に進学。学会発表などで他



研究の大きなテーマになった円石藻=白岩善博教授提供

英語教育にも尽力

大学の研究者や学生と生物について語り合ううちに研究の魅力に気づき、研究者になることを決意した。

研究人生で印象深かったことは、全世界の海に大量に生息する藻類の一種、円石藻に出会ったことだとい

う。円石藻は光合成や油の生産を行うため炭素を吸収し、人工的な石油生産に貢献する可能性がある。北極海から採取した円石藻の培養に世界で初めて成功し、その特性を解明した。

教員として学生の教育にも尽力。学生と国際会議に参加した際、英語で議論できない学生がおり、「学生の英語力が非常に足りないと感じた」と話す。以来、自身のゼミはすべて英語で

「TOEFL 講座」も開設。国際的な英語能力試験 TOEFL の点数は海外への留学や就職などの際に評価さ

れるが、講座の受講者はそれほど多くないという。他大学では高額な講習費を払い、TOEFL の勉強をする学生が多いのに対し、「筑波

で、将来の進路など一つに収束するはずがなく、むしろ興味は広がるばかり。結局今の私に決定的な影響を与えたことになったのは、2 年次から本格的に始めたロシア語

で、将来の進路など一つに収束するはずがなく、むしろ興味は広がるばかり。結局今の私に決定的な影響を与えたことになったのは、2 年次から本格的に始めたロシア語



自動車が絡む死亡事故が後を絶たない。自動車の長時間運転による体調の変化や、小道から出てきた歩行者に注意不足で

円玉の 5 分の 1 程度の大きさのカメラがあり、つるには無線通信機器が付いている。カメラが視線の動きを捉え、カーナビから得た情報を基に注意すべき方向を見るよう促す。例えば、子どもが飛び出してきそうな小道

や過去に事故が起きた交差点など危険な場所に近づいた際、視線がその地点と明らかに違っている

もの構造が大きく異なる。従来は、角膜に反射した光や瞳孔の動きを細かく計測。カメラを頭部に強く固定したり、計測部に光が入ることを防ぐために頭部を頑丈に囲ったゴーグル型の装置が必要で、正確に計測するには被計測者の負担が大き

で、周囲の明るさの影響を受けにくい。計測部が被計測者のまぶたの形状やまばたきなどに隠れにくい。このため、簡易なメガネ型の装置で楽に眼球運動を計測できる。

星野教授は「道路の整備や信号の設置には膨大な時間やお金がかかるため、効率的に事故を防止できる技術があればと思

うことで、視線の動きを計測し、客が買い物をした場所や、長い間見ていた商品などを調査することもできるという。

星野教授は「道路の整備や信号の設置には膨大な時間やお金がかかるため、効率的に事故を防止できる技術があればと思

うことで、視線の動きを計測し、客が買い物をした場所や、長い間見ていた商品などを調査することもできるという。

星野教授は「道路の整備や信号の設置には膨大な時間やお金がかかるため、効率的に事故を防止できる技術があればと思

うことで、視線の動きを計測し、客が買い物をした場所や、長い間見ていた商品などを調査することもできるという。

星野教授は「道路の整備や信号の設置には膨大な時間やお金がかかるため、効率的に事故を防止できる技術があればと思

視線の動き捉える眼鏡

交通事故の減少を目指す

差点など危険な場所に近づいた際、視線がその地点と明らかに違っている

そこで星野教授らは、白目にある毛細血管に着目。カメラが血管と黒目の端との接続点の動きを追跡し、黒目の中心に対して何度傾いたか計測する。血管は白目の部分に

黒くはっきりと映るの

待たれている。例えば医療の現場では、めまいの診察の際、あごを台に乗せ頭部を固定していたため、嫌がる子どもが多く

診察が難しかった。だが、星野教授の装置を使えばメガネをかけるだけで簡単に

待たれている。例えば医療の現場では、めまいの診察の際、あごを台に乗せ頭部を固定していたため、嫌がる子どもが多く

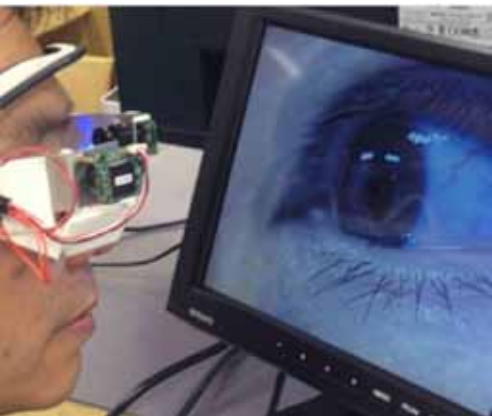
診察が難しかった。だが、星野教授の装置を使えばメガネをかけるだけで簡単に

待たれている。例えば医療の現場では、めまいの診察の際、あごを台に乗せ頭部を固定していたため、嫌がる子どもが多く

診察が難しかった。だが、星野教授の装置を使えばメガネをかけるだけで簡単に

待たれている。例えば医療の現場では、めまいの診察の際、あごを台に乗せ頭部を固定していたため、嫌がる子どもが多く

診察が難しかった。だが、星野教授の装置を使えばメガネをかけるだけで簡単に



装置を着け眼球運動を計測する様子。白目にある血管の動きがよく見える=星野聖教授提供



今思えば、何か一つに集中するというより、興味

味の赴くままにつまみ食いをしてきた大学時代だった。司法試験を目指して、主要法律科目の授業

のほか社会学類の刑法ゼミにもお世話になった。高校までは文系だった

が、1 年次に必修の数学で学んだオイラーの公式の美しさに魅せられ、微積分、複素関数、物理や電気回路の授業に夢中になった。一時は本気で理

系大学院への進学も考えたほどだ。日本史の授業をとっては歴史学者も面白そうだったと思う

た。こんな有様だったの

出会いと縁を大切に



三菱商事 企画業務部 土屋 智 さん

だった。情熱的なロシア語の先生方に勧められるがまま、1 年間サントペテルブルクに留学、いつしかロシアやその人々と関わる仕事がしたいと思うようになった。

た。いざ内定をもらってみると、そもそも今すぐ就職という道で本当に良いのか、大学院や司法試験の選択肢は捨てて良いのか、悩んだ。煮え切ら

ない私の背中を押してく

た。いざ内定をもらってみると、そもそも今すぐ就職という道で本当に良いのか、大学院や司法試験の選択肢は捨てて良いのか、悩んだ。煮え切ら

ない私の背中を押してく

た。いざ内定をもらってみると、そもそも今すぐ就職という道で本当に良いのか、大学院や司法試験の選択肢は捨てて良いのか、悩んだ。煮え切ら

ない私の背中を押してく

◇コブハサミムシ◇



撮影地=つくば市沼田

昆虫が活動するのは何も夏ばかりではない。コブハサミムシにとっては冬真つ盛りの今が、出会いのシーズンだ。ハサミムシの仲間では、このコ

ブハサミムシのみ母親が生きたまま子供に食べられるという習性を持つ。主に山間部の谷筋で繁殖するのだが、夏にはしばしば谷筋を流れる川が増水し、そこに留まらなくなる。このため、夏前

には翅の生えた成虫(短い前翅の下に、飛ぶための大きな後翅が巧妙に折りたたまれている)となり、移動しなければなら

ないが、そのためにはなるべく早く繁殖をすませないといけない。

5 年ぶりに 4 強逃す

大学選手権

【秩父宮ラグビー場（東京都港区）で大西美雨Ⅱ社会学類 2 年、山野辺拓実Ⅱ同 2 年、写真も】ラグビーの大学日本一を決める全国大学選手権が昨年 11 月 22 日から今年 1 月 10 日にかけて行われた。前回準優勝の筑波大は、16 大学が 4 組に分かれリーグ戦を行うセカンドステージで C 組 2 位に終わり、5 年ぶりに 4 強入りを逃した。



敵をかわして相手陣に切り込む福岡（昨年 12 月 27 日、慶應大戦で）

ラグビー

■大東文化大戦

12 月 13 日、秩父宮ラグビー場（東京都港区）での大東文化大（関東リーグ 4 位）と対戦し、22－31 で敗れた。前半 10 分に本村直樹（体専 4 年）がトライを決めると、続けてゴールキックで得点を重ねた。しかし、その直後から大東文化大が猛追。10－17 とリードを許し、前半を終えた。

筑波大は後半も流れをつかめなかった。14 分には本村、23 分には亀山宏大（同 4 年）がトライしたが、開いた点差を埋められなかった。

■同志社大戦

12 月 20 日には花園ラグビー場（大阪府東大阪市）

福岡が好トライ

■慶應義塾大戦

12 月 27 日に秩父宮ラグビー場で行われた慶應大（関東対抗戦 5 位）戦は、4 年生にとって最後の公式戦になった。

先制点を奪ったのは筑波大。前半 15 分に相手の守備を突破した本村から左サイドでボールを受けた福岡が

後半に入っても筑波大の勢いは止まらなかった。10 分には、26－8 と大きく同志社大を突き放した。中盤、同志社大が一気に 7 得点を挙げたが、26 分、福岡がトライ。直後 6 分には福岡からパスを受けた山内俊輝（同 4 年）がトライを決めた。勢いが止まらない筑波大は試合終了までにトライを 4 回重ね、64－17 で快勝した。

ライ。23 分、27 分にもトライを決めると、40 分には反則で得た筑波大ボールのスクラムでキャプテンの橋本大吾（体専 4 年）がボールをゴール地面につけた。前半は得点を許さず、26－0 と大きくリードして折り返した。

後半 3 分には、福岡がファインプレーを見せた。左サイドで受けたボールを軽く前方に蹴り守備をかわすと、落ちてくるボールを自分でキャッチしそのままトライ。直後 6 分には福岡からパスを受けた山内俊輝（同 4 年）がトライを決めた。勢いが止まらない筑波大は試合終了までにトライを 4 回重ね、64－17 で快勝した。

男女とも 3 回戦敗退

バスケット

【大田区総合体育館（東京都大田区）で大西美雨Ⅱ社会学類 2 年、写真も】

バスケットボール日本一を決める全日本選手権が 1 月 11 日まで行われた。筑波大からは昨年 11 月の全日本学生選手権で優勝した男女ともに出場したが、プロ

リーグ戦で、プロリーグ 1 部 NBL 3 位（1 月 21 日現在のアイシン三河に 54－106 で敗れた。序盤からアイシンの 2 層を超える身長の外国人選手を中心とした攻撃に圧倒さ

れ、失点が続いた。筑波大も馬場雄大（体専 2 年）が 3 ポイントシュートを決めるなどしたが、14－29 で第 1 ピリオドを終了。第 2 ピリオド以降もアイシンの勢いを止めることはできず、3 日に大田区総合体育館

徐々に点差を広げられ大敗を喫した。馬場は「アイシンの選手が、ドリブルやシュートなどの基本的なプレーを丁寧に行っているところにプロの強さを感じた」と話した。

吉田健司監督（体育系・准教授）は「全日本学生選手権に過度に意識が向いていたため、（今大会は）調整不足の選手が多かった。来年以降は全日本選手権でも勝ち進めるチームを作りたい」と語った。



シュートを狙う馬場雄大（1 月 3 日、アイシン三河戦で）

2 回戦で全日本社会人選手権 2 位の鶴屋百貨店を破った筑波大。駒沢オリンピック公園総合運動場体育館（東京都世田谷区）で行われた 3 回戦ではトップリーグ WJBL 8 位（1 月 21 日現在の三菱電機に 61－82 で敗れた。

第 1 ピリオドは、エースの藤岡麻菜美（体専 4 年）を中心に得点を重ね、18－14 で筑波大がリード。だが第 2 ピリオド開始直ぐ、三菱電機に速攻で崩され逆転されると、そのまま突き放された。渡邊愛加（同 3 年の 3P シュートなど）で立て直しを図ったが 32－47 と勝ち越されたまま前半を終えた。後半も三菱電機に攻め立てられ、点差を縮められなかった。

古豪復活へ勝負の 6 年目

筑波大陸上部の駅伝チームが、箱根駅伝の本戦出場を目標に日々練習に励んでいる。2011 年に「箱根駅伝復活プロジェクト」が始まり、10 年に 29 位だった予選会の順位は、昨年には 22 位と、徐々に成績を上げてきた。弘山勉監督（体育系・特任助教）は「選手たちに自分の可能性を信じてほしい」と話している。

さまざまな競技で日本トップレベルの選手が揃う筑波大だが、駅伝チームは「古豪」となっていた。1920 年の第 1 回大会では前身の東京高等師範学校が優勝を収めたが、1994 年

箱根駅伝復活プロジェクト

の第 70 回大会を最後に本戦出場から遠ざかっている。そこで 2011 年、「箱根駅伝復活プロジェクト」がスタート。5 年以内に本戦出場、10 年以内に優勝という目標を掲げた。予選会での順位は上がったものの、本戦出場には依然として遠かった。

昨年 4 月、プロジェクトの改革を図るため、陸上の強豪、資生堂で監督をしていた弘山勉が監督に就任した。就任してから 1 カ月半はチームの様子を見た。選手たちの意識が低く、練習の量と質も足りない現状を知り、このままでは箱根を目指せ

ないと悟った。本気で箱根を目指すために練習内容を大きく変えた。「弘山監督が来てから、練習の質が高まった」と選手たちは口を揃える。昨年 10 月 17 日の予選会では 22 位と、結果はふるわなかったが、予選会に出場した才記壮人（体専 3 年）は「前年よりもチームとして戦うことができた」と語り、手心えを感じている。

弘山監督は、「本戦出場に向けて、これからは選手のリーダーシップの育成に取り組みたい」と語る。選手が主体となり一人一人が考えながら練習に取り組む体制を目指す。筑波大駅伝チームの挑戦はまだ始まったばかりだ。（橋野朝彦）

全日本ラート競技選手権

女子 松浦が 4 連覇



見事な演技を披露して 4 連覇を果たした松浦（昨年 12 月 13 日、全日本ラート競技選手権で）

堀口は 2 位入賞

体操



【つくばカピオ（つくば市竹園）で中垣音彩Ⅱ心理学類 1 年、写真も】全日本ラート競技選手権が昨年 12 月 12－13 日に行われた。筑波大の体操部からは 10 人が決勝に進出し、女子は松浦佑希（体育 1 年）が総合 4 連覇を達成した。また、堀口文（同 2 年）が松浦と 0・05 点差で 2 位入賞を果たした。松浦と堀口は今年 6 月の世界選手権（アメリカ・シンシナティ）への出場を決めた。

総合 4 連覇を果たした松浦は、全部門で昨年よりも難易度の高い技を取り入れた演技構成で臨んだ。直転では 10・30 点と堀口に及ばず 2 位。斜転でも、ミスの無い安定した演技を披露し

高橋も 4 連覇

男子

男子総合は、筑波大体操



ロードでの実践練習を行う駅伝チーム（昨年 9 月 21 日、長野県上田市菅平高原で）＝陸上競技部提供



「写真：田村翔／アフロスポーツ」

誤審で反則負けとなり 3 連覇を逃した永瀬
(昨年 12 月 6 日、東京体育館で)

永瀬 3 連覇ならず 誤審で準決勝敗退

グランドスラム

柔道



世界のトップ選手が争うグランドスラム東京 2015 が昨年 12 月 4-6 日に東京体育館(東京都渋谷区)で行われた。前回、前々回と連覇を達成した男子 81kg 級の永瀬貴規(体専 4 年)は誤審に泣き、3 位に終わった。

永瀬は 2 回戦から出場すると準決勝でステイブンス(アメリカ)と対戦。相手に攻撃する隙を与えず、一本勝ちを収め、準決勝に進んだ。

準決勝の相手はイ・ソン(韓国)。試合開始直後から相手の懐に入り、大内刈りを何度も仕掛けるなど

積極的に攻めた。2 分 23 秒には大内刈りから得意の内股に転じ、相手を投げに行こうとした。相手は左足で永瀬をまたぎ、逃れようとしたが、永瀬が相手をすくい投げのように裏返した。一本勝ちのように見えたが、審判は永瀬の左手が相手の下半身を持っていたとして、足取りの反則をとった。だが実際には、永瀬は左手で相手の上着の裾を握っていた。

永瀬が判定直後に上着の裾をつかんで誤審を訴え、日本男子代表の井上康生監督も抗議したが、判定は変わらなかった。国際柔道連盟は競技終了後に誤審を認め、謝罪した。(加藤未悠)

◆記録ファイル
【男子】バドミントン 第 5 回全日本教育系学生選手権(昨年 12 月 26-27 日、葛飾区総合スポーツセンター)
【男子】バドミントン 馬場湧生(体専 2 年) 優勝、下川大樹(同 1 年) 準優勝、勝田大樹(同 1 年) 3 位
【女子】バドミントン 大久保敦美(同 3 年) 優勝、▽ダブルス 綿矢汐里(同 3 年)・柏原みき(同 2 年) 優勝
◆弓道 第 27 回全国弓道連盟大会(昨年 12 月 6 日、筑波大学蓬矢館弓道場)
【男子】▽個人 浅利光(同 1 年) 優勝

目指すは東京五輪

話。準々決勝の最終セット、相手チームのマッチポイント。チームメイトが審判台に近づきながら、それが嬉しくて続いていた。当時はアタック



バレーボール U-23 日本代表

酒井啓輔 (体専 1 年)

静岡県出身。バレーを始めたのは小学 2 年の時。サッカーや野球などもあり良くな、続かなかったという。だがバレーだけは違った。「レシーブやトスがまたま上手にできた時に褒められ、それが嬉しくて続いていた」。当時はアタックできなかった。練習試合を重ねることで克服したが、この時の経験から「最後まで気を抜かないことの大切さを学んだ」。

今年、あと二歩で逃した全日本インカレ優勝を目指す。そして将来は 2020 年の東京五輪への出場を夢に描いている。「セッターは司令塔的ポジション。勝ちたい時こそ冷静に周りを見渡せる選手になりたい」。ひたむきな努力で培われた確かなトスで、チームを頂点へ導く。(佐々木悠里 1 年文学類 1 年、写真は本人提供)

全日本インカレ 男子 中央大に敗れ準優勝



円陣を組み、気合を入れる筑波大選手(昨年 12 月 6 日、大田区総合体育館で) = 男子バレーボール部提供

高いブロックに苦戦

バレー

【大田区総合体育館(東京都大田区)で佐々木悠里 1 年文学類 1 年】大学バレーボールの日本一を決める全日本インカレが昨年 12 月 1-6 日に行われ、筑波大は男子が 3 年ぶりに決勝に進出したが、中央大に敗れ準優勝となった。敢闘選手賞、レシーブ賞に宮下拓也(体専 4 年)が選ばれた。関東大学リーグを春秋制覇し、優勝が期待された女子は 3 回戦で鹿屋体育大に敗北し、ベスト 16 に終わった。

2 回戦から出場した男子は、準決勝の明治大戦まで 1 セットも失わず決勝に進出。昨年の優勝校・中央大に臨んだ。

だがスタメンの平均身長が 190cm を超える中央大



鋭く決まるアタック(昨年 12 月 5 日、大田区総合体育館で) = 同部提供

の高いブロックに苦戦し 18-25 で第 1 セットを落とした。その後「コートの隅を狙うなどの『攻め』のサーブを増やした」(秋山監督)で、試合の主導権を握るには至らず、第 2 セットを 18-25、第 3 セットも 17-25 で落とし、ストレート負けを喫した。秋山監督は「サーブで崩され、ブロックを越えるスパイクに繋げられなかった。この苦い経験は次のインカレに生かしたい」と語った。

女子は 1 回戦の大阪国際大、2 回戦の千里金蘭大戦

負けた。秋山監督は「サーブで崩され、ブロックを越えるスパイクに繋げられなかった。この苦い経験は次のインカレに生かしたい」と語った。

女子は 1 回戦の大阪国際大、2 回戦の千里金蘭大戦

夏の練習で成長

観戦記

3 年ぶりの決勝進出となった今大会。秋山監督(体育系・助教)は「4 年生を中心に行った夏の猛練習の成果だ」と振り返った。

筑波大は少数精鋭のチームだ。決勝で戦った中央大の部員数 27 人に對し、筑波大は 16 人。その上、高橋健太郎(体専 3 年)や児玉康成(同 3 年)など全日本代表などに選ばれる選手も多く、リーグ戦では主力メンバーが揃ったことほとんど

なかった。

だが、その分夏場にチームに残った選手が「人数が少ないため回転が速く、質が高かった」(高橋達己 1 年)という練習をこなした。チーム全体のディフェンス力やカウンター攻撃が向上。それが全日本インカレ決勝進出という結果につながったという。

敢闘選手賞とレシーブ賞を受賞した宮下拓也(同 4 年)も夏に鍛えられた一人。一般入試で入学した宮下は、最初は推薦入試組の控えだった。だが、ひたすらボールを繋いでくれた

が、相手のいない場所を狙って放ったボールはネットに引っかかった。自身のミスで中学最後の大会が終わってしまった。「しばらくの間、相手コートにボールを返すことが

ら厳しい練習を重ね、スタメンの座を勝ち取り、全国屈指の選手にまでなった。今大会は 3 年ぶりの好成績を残したが、選手たちは満足していない。試合終了後の表彰式、涙を流しながら臨んだ筑波大の選手たちは、準優勝のメダルをすぐに外していた。他大学の選手が写真撮影で盛り上がる中、筑波大の選手はすぐに荷物をもとめ帰っていった。悔しさが行動に表れていた。

この大会を最後に 4 年生が引退し、新たなチームとなる。この悔しさをバネに再びこの舞台まで駆け上がり、今度は喜びの涙が見られることを願う。

サッカー



1 部残留決める
関東女子リーグ

関東女子サッカーリーグ 1 部入替戦が昨年 12 月 19 日に東京国際大坂戸キャンパス第 3 グラウンド(埼玉県坂戸市)で行われ、筑波大(1 部 7 位)は尚美学園大(2 部 2 位)に 2-0 で勝利し 1 部リーグ残留を決めた。

前半 5 分に水谷有希(体専 1 年)がゴールを決めると、18 分には白井蒼(同 2 年)がゴールを決めた。

年)がゴールを決め、突き放した。筑波大はそのまま逃げ切った。

この 2 チームは一昨年も入替戦で戦っており、その時は 0-0 の引き分けで筑波大が残留を決めていた。同 1 部リーグの結果は次の通り。▽早稲田大 11 位(勝ち点 30)▽浦和レッズレディースユース 12 位(同 29)▽日テレ・メニーナ 13 位(同 19)▽ジェフ市原・千葉レディース U-18 14 位(同 19)▽東京国際大 15 位(同 18)▽関東学園大 16 位(同 17)▽筑波大 17 位(同 15)▽武蔵丘短期大学 シンシア 18 位(同 14) (小宮山瑛生) 長した。

顔

昨年 12 月の全日本インカレ決勝。1 年生ながらセッターとして出場し、186cm の長身から繊細なタッチでボールを自在に操り、攻撃のタクトを振った。U-23 日本代表にも飛び級で選出された日本バレーボール界期待の星だ。

静岡県出身。バレーを始めたのは小学 2 年の時。サッカーや野球などもあり良くな、続かなかったという。だがバレーだけは違った。「レシーブやトスがまたま上手にできた時に褒められ、それが嬉しくて続いていた」。当時はアタック

できなかった。練習試合を重ねることで克服したが、この時の経験から「最後まで気を抜かないことの大切さを学んだ」。

今年、あと二歩で逃した全日本インカレ優勝を目指す。そして将来は 2020 年の東京五輪への出場を夢に描いている。「セッターは司令塔的ポジション。勝ちたい時こそ冷静に周りを見渡せる選手になりたい」。ひたむきな努力で培われた確かなトスで、チームを頂点へ導く。(佐々木悠里 1 年文学類 1 年、写真は本人提供)

静岡県出身。バレーを始めたのは小学 2 年の時。サッカーや野球などもあり良くな、続かなかったという。だがバレーだけは違った。「レシーブやトスがまたま上手にできた時に褒められ、それが嬉しくて続いていた」。当時はアタック

できなかった。練習試合を重ねることで克服したが、この時の経験から「最後まで気を抜かないことの大切さを学んだ」。

今年、あと二歩で逃した全日本インカレ優勝を目指す。そして将来は 2020 年の東京五輪への出場を夢に描いている。「セッターは司令塔的ポジション。勝ちたい時こそ冷静に周りを見渡せる選手になりたい」。ひたむきな努力で培われた確かなトスで、チームを頂点へ導く。(佐々木悠里 1 年文学類 1 年、写真は本人提供)

静岡県出身。バレーを始めたのは小学 2 年の時。サッカーや野球などもあり良くな、続かなかったという。だがバレーだけは違った。「レシーブやトスがまたま上手にできた時に褒められ、それが嬉しくて続いていた」。当時はアタック

土井教授の著書、国語の問題に

センター試験 筑波大で 6843 人受験



センター試験に臨む受験生たち（1月16日、3A棟で）＝岡田優太撮影

大学入試センター試験が1月16―17日に行われ、筑波大学でも前年より128人多い6843人の受験生が慎重な表情で問題に取り組んだ。筑波大周辺は同日とも雪などによる試験の遅れはなく、1日目は「地理

【1面参照】ジャカルタで平嶋健人II社会学類4年、写真も「インドネシアはイスラム教徒が人口（約2億4000万人）の9割を占めるイスラム大国だ。過激派組織「イスラム国」（IS）が起こしたとみられる残虐なテロは、同国社会にどんな衝撃を与えたのだろうか。事件の翌日、ジャカルタにある東南アジア最大のモスク「イスティクラ」を訪れた。テロの直後だが、厳重な警備は無



ジャカルタ 見聞録

戻りつつある日常

い。市内の観光施設や商業施設の入り口なら、必ずあるはずの手荷物検査も無く中に入れた。

モスク内を案内してく



花やプラカードを手に事件現場に集まる人々（1月15日、ジャカルタで）

テロを機に広まった標語「戻りつつある日常」のことが尋ねると「彼らは悪いイスラム教徒だ。テロがあろうがなかろうが、私たちはただ祈りの続けるだけだ」と答え、おもむろに私のカメラを手を取った。「そんな話は

テロから4日経った夜、スターバックス前を通りかかった。前日まで大量にあった花束や追悼の言葉が書かれたボードは、通行の邪魔になるから警察によって撤去され、今にも消えそうなど本物の花束が燃えていた。歩道を埋め尽くしたメディアももういない。バイクタクシーの運転手たちはスターバックス前の駐車場で仲間とたばこをふかし、そばの移動屋台からはサテ（インドネシア風焼き鶏）の炭火の香りが漂っていた。やはり爆発のあった警察官詰め所前には銃を持った警官が立ち、商業施設やオフィスビルでは手荷物検査を二重に行うなど警戒体制は続く。テロの恐れは消えないが、インドネシア市民には日常が戻りつつある。

留学生の目

ペドロ・パソス・コウテロ

来日して一ヶ月になつたことは、いわゆる仕事文化である。残業や過労死などの単語が良く聞かれる。日本は仕事熱心というイメージが強いが、別の捉え方が可能であるのを感じてきた。



日本に聞くと、日本の社会人は働きすぎるといふ答えが良く返ってくる。確かに残業が当たり前であり、サービス残業も珍しくないという日本では勤務時間が他の国と比べて長くなることは事実である。しかし、仕事への熱意とは勤務時間といったものであろう。

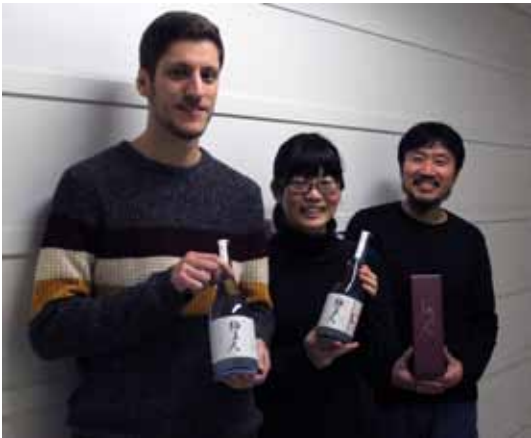
長時間労働ではなく、効率的な観点から。一日8時間の通常勤務時間を超える、残業の給金は法律に従うと通常の賃金より高い。いわゆる残業手当がつくのだ加えて、める会社は理解し難い。企業は、従業員が残業を行うことを、「仕事熱心で良いこと」ではなく「会社に損失を与える体制」として見る必要がある。当然、時には残業が必要なものもあるが、経営者にとつては、毎日従業員が残業をするのは、従業員の人数が足りないのか、従業員の効率が悪いことなのだろうかを表している。

に仕事を終わらせるといふ動機を無意識的になくしてしまい、効率が下がってしまうのは驚くことではない。日本社会では、「勤務時間が長ければ良いほど良い」という経営側の考え方が多いように感じられる。読者も、勉強や部活などでも経験したことがあるのではないかな。残業とは文字通り「残った業務」であり、良いものではない。「家族主義」として個人よりも集団を重視することを自慢にする日本社会において、「長く働きたくないうから」ではなく、「効率的ではないから」という理由から仕事文化を変えていくことをより積極的に目指すべきではないだろうか。（国際総合学類2年IIラジール出身 原文も日本語）

た。その後、見つけた共通点をもとに自他の関係などについて話した。次第に議論は教育や宗教、時事問題にも及び、3時間かけ白熱した議論が繰り広げられた。

豪雨被害の酒造を支援 学生がラベルをデザイン

関東・東北豪雨で被災した老舗酒造会社、野村醸造（常総市石下町）の復興支援のために筑波大生が日本酒「細美人」のラベルをデザインし、昨年12月中旬に約2000本が初出荷された。



デザインを行ったラベルが貼られた「細美人」を手にする佐々木さん（中央）ら（1月7日、芸術学系棟で）

た。そこで、ラベルは手作業でのみ張ることが可能なデザインにすることを決めた。学生らが案を出し合い、12月上旬にデザインを決定した。

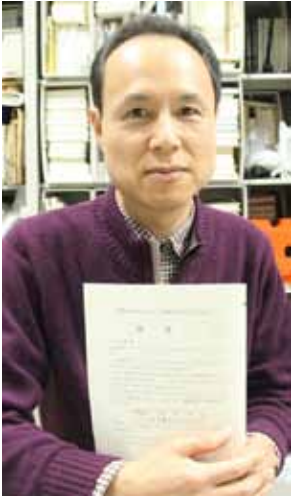
感謝の言葉が書かれている。瓶にはラベルと水引きが付いており、感謝の気持ち表現したデザインとなっている。

折学カフエ 日々の疑問語り合う 身近なテーマについて学生や社会人たちが哲学者を交えて議論する哲学カフエ「ソクラテス・サンバ・カフェ」が昨年12月27日、東京キャンパス文京校舎で行われた。哲学カフエは人文社会科学研究科哲学・思想専攻の教員らが毎月開催しているもので、今回は社会人や学生など約20人が参加した。

哲学カフエ 今後の、原准教授の研究室では、酒造の本格的な復興を目指して、店舗の改装などにも着手していく予定だという。

魅力を語った。運営に携わる五十嵐沙千子准教授（人文学系）は「他者を通して自分の考えをみたり、自分の思いを共有したりする場所になれば良い」と述べた。（徳永翼、12面に関連写真）

国語の問題冊子を持つ土井教授（1月20日、人文社会学系棟で）＝徳永翼撮影



国語の試験問題には、評論の問題で土井隆義教授（人文学系）の『キャラ化する（人文学系）』の一部が問題文に使われた。本書はスマートフォンやネットなどを通じて過度に繋がりが合い、その中で衝突の少ない人間関係を望む現代の若者の実態を描く。

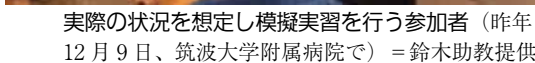
試験に使われたことに「試験後に、ネット上で文章が話題となったようだが、白著に描いた通りの光景がそこでも再現されていて興味深かった」と話した。

野村醸造は鬼怒川の近くに酒蔵を構えており、昨年9月の豪雨では、胸の高さまで浸水した。こうじ室にも水が入り、瓶詰め用の機械や店舗も水没してしまいい、製造、出荷ができなくなった。

昨年10月上旬に原忠信准教授（芸術系）や研究室の

記者が研修に参加

■災害直後の模擬実習
 大災害直後の避難所を想定し、被災者役と支援者役に分かれて行った模擬実習では、参加者に「△ケガ人△子ども△富裕層の主婦△救急隊員△避難所スタッフ……などさまざまな役柄が割り振られた。記者の役柄は「臨月の子連れの妊婦」。講師の臨床心理士・鈴木吏良助教（医学医療系）が被災者役の参加者に「それぞれの役にいきり、感情を表現してください」と指導



記者の子ども役には別の参加者が扮した。

講師の臨床心理士・鈴木吏良助教（医学医療系）が被災者役の参加者に「それぞれの役になりきり、感情を表現してください」と求め、模擬実習が始まった。

まず記者らが想定したのには、子どもと離ればなれになったケース。避難所のスタッフ役に「子どもが迷子になりました」と伝えたところ、「私たちが探すので待っていてください」と言われた。だが子どもが気がかりでいてもたってもいられず、自分も探しに行ってしまった。

結局、子役は発見されたがその時は本当に安心し、子役と抱き合うなど、模擬実習とは思えない臨場感だった。

■「傾聴」方法を実践
研修後半では、「傾聴」の方法を学んだ。被災者の話を注意深く聞く技術で、相手の言葉や注意すべき点と、ここで大きく返す「うう、なすき返し」や、相手の言葉で印象に残ったことを繰り返す「アクセント返し」などの手法を講師が紹介。相手の緊張を和らげるなどの効果があるという。

この後、参加者が傾聴方法を実践。記者の場合、相手の話に相づちを打つタイミングが難しく、「アクセント返し」に苦戦した。

最後に精神科医の今村芳博助教(医学医療系)が「まずは相手の話をしっかり受け止める姿勢を見せることが大切」と参加者にアドバイス。研修に参加した鈴木実優さん(芸専3年)は「模擬集習などを通じ、被災者と支援者双方の立場に立つことができ、良い経験になった」と話した。

被災地で撮影された写真（1月19日、3A棟で）

東日本大震災の被災地でボランティア活動を行っている「Tsukuba

この写真展は被災地の現状を伝え風化を防ぐことが

目的。学生が東北での支援活動の企画に撮影した写真と写真展示している。学生が被災地で出会った人々の復興に向けて活動を続けている。様子を写した写真が多い。写真展の準備は、東北などで開催された他の写真展を取材し、写真展示の方法を参考にしながら進めてきた。

代表の野中駿宏さん（生資1年）は「写真を見て、復興に向けて動く人の想いを感じ、復興のためにできることを考えるきっかけになればうれしく話した。写真展は3月8日から13日までBiviv（ビビブ）くは市吾妻）でも開催予定だ。（前名裕一、写真も）

筑波大生らが作業に集中できるアプリ「UGEN(ゆげん)」を開発し注目を集めている。

UGENはツイッターと連動させて使う。あらかじめ自分がよく使うウェブページのURLをアプリに設定。そして、勉強などの

アプリでサボり防止
技術者育成の一環

筑波大生らが作業に集中できるアプリ「UGEN(ゆげん)」を開発し注目を集めている。

UGENはツイッターと連動させて使う。あらかじめ自分がよく使うウェブページのURLをアプリに設定。そして、勉強などの

UGEN公式アカウント 2015/12/22
15分かかると見積もった「まとも」を11分で終了しました! Tue Dec 22 2015 01:37:29 GMT+0900 (東京標準時) #UGEN

UGEN公式アカウント 2015/12/22
10分かかると見積もった「t y」を9分で終了しました! Tue Dec 22 2015 01:26:07 GMT+0900

作業を始める前に集中したい時間を設定する。作業が終了したら、タスク完了ボタンを押す仕組みだ。

設定した目標時間内に作業が終了しなかった場合、作業が完了しなかった旨が投稿される。作業が完了する前に登録しておいたウェッブページを5秒間閲覧する。そのURLがツイッター上に公開される。勉強中に関係のないウェッブページをアプリが起動すると、ツイッターに投稿される

見ないようにしたいと考えたことがアプリの開発につながったという。

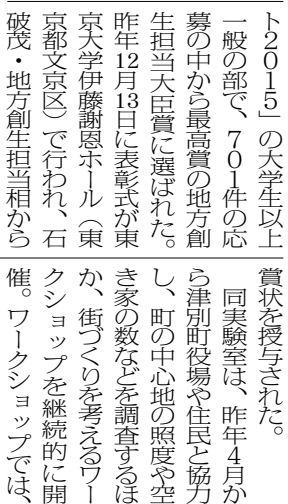
アプリの名前は、「有言実行」の「有言」と「時間有限である」という言葉の「有限」をかけている。

このアプリはシステム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻が2012年度から取り組んでいる最先端の情報技術者を育成する取り組みである「enPiT」の活動を通して作られた。

制作者のひとりである渡邊玲さん(CS1年)は、「自分で実際に試してみたいところ、何かの作業中に別のサイトを見るのがなくなっただけでいい使ってほしい」

地方創生コンテスト
過疎地の強み見出す

過疎化や高齢化が進む北海道の津別町と連携し「まちなか再生事業」に取り組む社会工学域都市計測実験室が、政府主催の「地方創生☆政策アイデアコンテスト」で入賞した。



賞状を授与された。

同実験室は、昨年4月から津別町役場や住民と協力し、町の中心地の照度や空き家の数などを調査するほか、街づくりを考えるワークショップを継続的に開催。ワークショップでは、地元の高校に生徒を集めるにはどうすべきかなどを住民と共に考えている。

コンテストで評価されたのは、綿密な調査から空き家が多いことなど、同町の課題を明確化した一方で、農業や林業などの強みを見出した点。また、同実験室に所属する竹屋裕樹さん（施工専攻1年）や湊信乃さん（同1年）が、同町に11月

近く滞在し、住民により近い状況で調査していた点も好評だった。

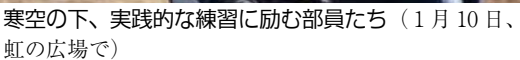
湊さんは「津別町の住民からも喜びの声を聞きうれしい。ワークシップなど、この活動は今後も継続し、そこで生まれたアイデアが政策として実行されれば良いと思う」と語った。

津別町は、北海道東部の約三分の一に当たる広い面積を有する。1960年には約1万6000人だった人口が現在約5000人に減少し、町の中心地が「シャッター商店街」となるなど近年過疎化や高齢化が問題となっている。

（森脇慎）

筑波大生や教職員らを対象に同様の研修を行う予定。参加申し込みは
disasterpsychiatry@
md.tsukuba.ac.jp
029-263-3021
(災害精神支援学)

本気でフリスビー



10日、虹の広場で、シングディस्क、いわゆるスリッピーを真剣に含む学生たちの姿を見た。フリスビーと遊びの印象が強いスリッピーの競技であるフリスビーの練習に、フリスビーの練習にいた。

の出場選手が行う。アルティメットでは「スプリット・オブ・ザ・ゲーム」という各選手のフェーズ

動している。ほとんどの会員は入会当初、初心者だ。最初のうちはフリスビーに慣れていないため



寒空の下、実践的な練習に励む部員たち（1月10日 虹の広場で）

フルティメットの競技人口はまだ少ない。そのため、試合が遠方で行われることが多く、移動の費用が掛かったり、他大との練習試合が行いにくいという。また、普段の練習では専門の指導者はおらず、OB・OGが練習に加わって指導を行うことも多い。

代表の永柳裕次さん（日田2年）は「トップの選手と同じ大会に出場することもあり、刺激を受ける」と話す。大会後は強いチームと比べ、自分たちの弱点を分析し、克服するよう意識しながら練習に励んでいる。

目標は毎年9月に行われる全日本大学アルティメットの競技人口はまだ少ない。そのため、試合が遠方で行われることが多く、移動の費用が掛かったり、他大との練習試合が行いにくいという。また、普段の練習では専門の指導者はおらず、OB・OGが練習に加わって指導を行うことも多い。

スキャッチ」や「ごめん」など声を掛け合い、練習試合になると空気が一転。鋭い声を出し合っていた。飛距離の長いディスクをタイミングよくキャッチするといった派手な技も連発。休憩時間は真剣な表情で改善点や戦略などを練った。彼らの情熱が感じられた。

会員の声沢田香さん（教育2年）は競技の醍醐味を「チームメイトと息を合わせてディスクをつなぐ」と話す。

心を一つにディスクをつなぐ。その先に彼らがある。（小宮山瑛生さん）

学類1年、写真も

1月10日、虹の広場で

 tanbō

まのことが特徴だ。
試合の審判は両チーム

インバーハウスは今年で設立34年目。62人で活

パズやキャッチがうまくできず、苦勞するところ。練習は土曜と日曜の週2回、虹の広場や反町の森公園（つごは市桜）で行っている。

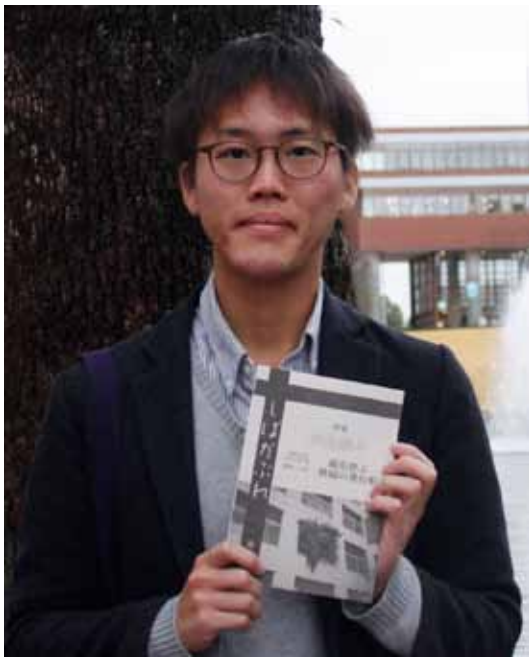
アルティメットの競技

メット選手権大会で本戦に出場すること。目標に向かい、日々パスの技術や、選手間の連携の向上に努めている。

Who's Who?

俳句同人誌「しばかぶれ」編集長

堀下 翔 さん (比文2年)



編集長を務める「しばかぶれ」と堀下さん(1月18日、2A棟前で)

自身が編集長を務める俳句同人誌「しばかぶれ」の第一集を昨年11月に発行した。しばかぶれとはシモフリシメジというキノコの別名。「ナンセン」な面白さを求め、この題名に落ち着いたという。昨年11月に東京で行われた文学同人誌の即売会で販売したところ、約4時間で完売した。

北海道出身。中学時代は高校生にして第一詩集を刊行した詩人・文月悠光に憧れ、趣味で詩を制作していた。高校では文芸部に入部。1年生までは詩の制作に取り組んでいた。転機が訪れたのは2年生の時。部で俳句の全国大会である「俳句甲子園」に出場することになり、メンバーが足りず、急

き参加。決勝トーナメントの1回戦で敗退したが、決勝を観客席で観た。助詞の選び方や漢字と仮名の使い分けで勝敗が決まる世界。同世代が詠む句のレベルの高さに驚かされた。決勝で敗れた高校のリーダーは号泣していた。「詠み手の1字1句に込められた熱い想いを感じた」。何より、言葉に対して責任を持つ姿勢に魅了された。大会の翌日、季語の辞典である歳時記を購入。本格的に俳句を作り始めた。俳人・堀下翔が誕生した瞬間だった。俳句を作る上で、他の俳人に認めてもらうには同人誌に所属した方が良く、知り、高校2年生の冬に同人誌「里」に所属。その後、角川俳句賞に50句を応募するなど、積極的に活動を行った。高校3年生の時に第6回石田波郷新人賞を受賞。(熊ん蜂二匹や花を同じうす。受賞した20句のうち、特に評価の高かった句だ。1つの花の周りを2匹の蜂が飛んでいる何気ない情景。「派手なこと詠むのではなく、目に

目に映る何気ない情景を表現
俳句のために生きていく

映った風景をそのまま切り取って俳句にするのが自分の信条」と語る。地方に比べて関東は俳句の資料が多い。その関東の国公立大学で日本文学を学びたいと思い、筑波大学の比較文学類を志し、ACC入試を受験。「人間探求派」と呼ばれる俳人・中村草田男に高校時代から関心を抱き、彼の作品や評論などに触れていたことから入試の自己推薦書では中村草田男の研究について論述。合格を勝ち取った。筑波大には俳句サークルがなく、「俳句サークルを立ち上げたい」と入学当初から思っている。昨年5月には友人と共にツイッターなどで呼びかけ、持ち寄った俳句を鑑賞し評価し合う「句会」を筑波大で開催。12人が参加し、「五月」ソウダ水など夏の季語をテーマに、作品を持ち寄った。俳句は誰でも気軽に詠め、興味を持つ人も多いが、句会などに参加するのは敷居が高く、参加人数の少なさに結びついている。「初心者層にどう参加してもらうかが

今後の発展につながる」と語る。休日も頭の中は俳句のことで一杯だ。東京の句会や勉強会に参加し、他の俳句詠みから刺激を受けることも多い。また、多くの俳人を生み出し、俳句甲子園を主催する愛媛県松山市の「俳句のコーチの派遣事業」にも携わっており、依頼を受けて日本各地の高校で俳句の指導を行う。「指導を通して自分と同世代の人が俳句に真剣に向き合っている姿を見ることができるのが嬉しい」と語る。制作活動をする中で、出版社と関わることも多くある。編集者と関わる中で世間で何が求められているかを考え、時代の流れに寄与する編集者の仕事に魅力を感じた。そのことがきっかけで卒業後は出版関連の仕事に就きたいという。また、「社会人として生活しながらも、俳句の制作は続けていきたい」と語る。「俳句の為にずっと生きていきたい」(橋野朝奈11日本語・日本文化学類1年、写真も)

編集後記

今号から編集幹部が3年生から2年生に代わりました。分からないことや慣れない仕事ばかりですが、引退した先輩方の力を借りつつ、なんとか今月も紙面をお届けできました▼一面の「つくば歳時記」では、例年より一足早い筑波山の梅の開花を報じました。本紙は例年、1月号発行の後には4月号まで空くため、梅を紙面に掲載できるのは数少ない機会です▼連日の寒さ

次号は

4月7日(木)

発行予定です

応援部 WINS 桐華祭



会場には団員たちの力強い声が響いた(1月16日、つくばカピオホールで) = 前名裕一撮影

5面へ

全日本選手権



プロチームを相手に健闘する選手(1月3日、大田区総合体育館で) = 大西美雨撮影

8面へ

全日本インカレ



得点を決め、歓喜する選手たち(昨年12月6日、大田区総合体育館で) = 男子バレーボール部提供

9面へ

哲学カフェ



怒りがどう鎮まるかについて語り合う参加者(昨年12月27日、東京キャンパスで) = 徳永翼撮影

10面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活